

学外実習 (Internship)		4 年・夏季・1 単位・選択 物質化学工学科 担当 伊月亜有子、松浦幸仁、中村秀美
〔準学士課程 (本科 1-5 年) 学習・教育目標〕 (4)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2 (80%)、A-2 (20%)	〔JABEE 基準〕  (d-2d)、 (b)
〔講義の目的〕 学生が企業等での就業体験を通して自分自身を見つめ直し、企業や社会の実際を知ることにより、学習意欲・自律性・創造性などを向上させ、職業選択の際の意識作りに役立たせる。		
〔講義の概要〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け入れ可能企業と学生の希望により、実習先を決定する。</li> <li>・ 夏季休業期間中に 5 日間・30 時間以上、実習先担当者の指導のもとで実習を行う。</li> <li>・ 実習期間中に本校教員が実習先を訪問し、実習状況を視察する。</li> <li>・ 実習を終えた後、速やかに学外実習修了証明書、業務日誌、学外実習報告書を提出する。</li> <li>・ 実習報告会を実施し、実習者は学外実習報告書に基づき発表する。</li> </ul>		
〔履修上の留意点〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学外実習の意義と目的を十分に理解して、実習に臨むこと。</li> <li>・ 実習期間中は実習先の指示に従い、安全には十分気を配って実習を行うこと。</li> <li>・ 服装や言葉づかいなど、実習におけるマナーを守ること。</li> </ul>		
〔到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来に向けた職業意識の形成を図る。</li> <li>・ 実践現場における就業体験により自己能力の開発を促す。</li> <li>・ 就業体験を通して技術者としての心構えを身につける。</li> </ul>		
〔評価方法〕 実習先での学外実習修了証明書及び業務日誌 (50%)、学外実習報告書 (25%)、及び学外実習報告会 (25%) を総合して評価する。		
〔自己学習〕 目標を達成するためには、授業以外にも予習復習を怠らないこと。		
〔教科書〕 事前のガイダンス資料を参考にする。		
〔補助教材・参考書〕 昨年度までの学外実習報告書 (冊子体)。		
〔関連科目・学習指針〕 一般科目、専門科目を問わず、これまでに学んだ全ての科目が関連する。事業所 (企業等) と学校の連携による創造的技術者の育成に役立つ科目なので、積極的かつ真面目に取り組めば、大きな成果が得られる筈である。		

## 講義項目・内容

項目番号	項 目	内 容	自己評価*
1	学外実習ガイダンス	資料配付「インターンシップ（学外実習）ガイダンス資料」	
	5 月	1. インターンシップとその教育的意義	
		2. インターンシップ実施の前提	
		3. 実施時期：夏季休業期間中	
		実施期間：連続 5 日間（30 時間）以上	
		実習内容：研究補助・品質管理・材料試験・設計・生産技術・生産管理など	
		4. 就業条件及び報酬	
		5. 守秘義務	
		6. 賠償責任	
		7. 単位認定・成績評価	
		8. 今後のスケジュール	
2	実習先決定	1. 回答をいただいた受け入れ可能実習先を順次提示	
	6 月	2. インターンシップ（学外実習）申込書（写真貼付）を提出	
		3. 実習先希望調査 → 調整	
		4. 誓約書提出	
3	インターンシップ保険	・学生課でインターンシップ保険加入手続き	
	加入手続き 7 月		
4	学外実習事前指導講習	1. 全学科対象で実施	
	会（特別講演） 7 月	2. 物質化学工学科としての事前指導も実施	
5	学外実習 7～8 月	1. 事業所でのオリエンテーション	
		2. 実習	
		3. 業務日誌を付けて毎日事業所の担当者に提出	
		4. 学外実習報告書の作成	
6	報告書等の提出 9 月	1. 学外実習修了証明書	
		2. 業務日誌	
		3. 学外実習報告書	
7	学外実習報告会	1. 物質化学工学科教職員、3 C 及び 4 C 学級担任が出席し、	
	9 月	評価	
		2. 3 C, 4 C 学生が出席	
8	学外実習審査会	学外実習修了証明書及び業務日誌（50%）、学外実習報告書（25%）、及び学外実習報告会（25%）を総合して評価する。	
	9 月		

\* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。  
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）